

令和6年度
事業計画

社会福祉法人 七葉会
特別養護老人ホーム
菅田心愛の里

【菅田心愛の里 基本理念】

和顔愛語賛嘆

私達はおだやかな顔 やさしい言葉で人をたたえ、入居者・ご家族、そして全ての人々の笑顔のため、明日に繋がる笑顔のために支援を行います。

【運営方針】

1. 全ての入居者に安全・安心、そして出来るだけ自由に。

入居者本位の介護サービスに徹し、入居者・家族・全ての方の笑顔のために支援をする

2. 働きやすく、働き甲斐のある職場作り

3. 健全経営の確保

4. 社会・地域貢献

スローガン

「個の成長と組織の成長」

個々の成長が組織全体の成長に繋がります。個々が自身の力を最大限に引出し、新しい思考やスキルを身につけチャレンジしていくことで個の成長が生まれます。個々の強みを生かし、お互いの良いところを学び、弱みはサポートしあうことで、組織全体の調和が生まれ、成長が生まれます。組織は一人一人をサポートし、職員が自らの目標に向かって進み、仲間と協力をし飛躍する年度とする。

施設目標

1 全ての入居者に安全・安心、そして自由に。入居者本位の介護サービスに徹し、入居者・家族・全ての方の笑顔ために支援する。(customer satisfaction)

① 入居者本意のサービスの提供

4年度に、ユニット推進協の実地研修施設に認定された。今後も根拠ある入居者本位のサービスを提供し、ユニットケアの原点である、介護が必要になっても、ごく普通に生活を営めるよう、入居者が今まで営んでいた在宅での生活に、可能な限り近づけ、利用者の意思と自己決定を最大限尊重した個別ケアを実現し、入居者の更なる満足度を上げていく。

② ICTの活用

4年度に全居室に眠りスキャン等のICTを導入。今後は眠りスキャン等を活用し、利用者の行動特性の情報を得ることで入居者へのケアの質の向上を図る。

③ 24生活シートの活用

入居者の必要に応じてサポートするための一人一人の暮らしの情報を職員が共有し、介護者による差のない介護が出来るような支援を進めるため、24生活シートを的確に更新し活用していく。

④ 入居者の自由度拡大

24時間のエレベーター開放、日中帯の施設内施錠開放、日中帯の3Fバルコニー開放を継続した。また、ほとんどの施設が予約面会から先へ進めない中、心愛の里は令和4年11月から自由面会を続け、入居者・ご家族様に喜んで頂けている。(面会人数は5,498名) 今後も入居者の心の健康と身体の安全のバランスを取りながら、6年度も更なる入居者の自由度拡大に努める。

⑤ レクリエーションの充実

5年度は236本のレクリエーションを企画し実行した。また貸切バスツアーも復活させた。6年度も個別の外出の頻度も更に増やす。認知症のケアでは、運動による脳内血流量の増加とワクワクすることで脳に刺激を与えることが大切であり、6年度は更なるレクリエーションの充実を図る。

⑥ 家庭的な食事の提供

4年度よりユニット配膳を開始。五感で楽しんで頂ける食事を提供している。また、6年度も、更に入居者の皆様に美味しく喜んで頂ける食事を提供する。

⑦ 家族への情報提供

5年度のブログは、165回(+9)のアップにアクセス数は、50,500(-500)件であった。また、SEチームのツイッターは125回のポストであった。6年度心愛の里の魅力を発信し、幅広い年齢層にアクセス頂けるように頻度を上げていく。

2 働きやすく、働き甲斐のある職場作り(employee satisfaction)

① 介護職員人員の体制確保

常勤職員42名(2ユニット7名×6)以上の体制、看介護1.9:1以上の体制を維持し続ける。(令和5年度1.72:1 -0.4) 今後も、適切な介護を提供できる人員を確保する。また介護職員平均年収は、447万円(令和5年 +4万)と高水準の給与体系を維持し、労働意欲の向上に努める。6年度も引続き人員体制確保に努めていく。

② 新卒採用の強化

5年度介護職の採用は、新卒1名、東部職業技術訓練校2名のみであった。6年度の新卒採用は出来なかった。7年度は例年通り3名採用を目指す。また、今年度は中途採用も対応していく。また、大原医療福祉専門学校の実習生を入社に繋げられるよう、実習の充実を図り、心愛の魅力を発信し、新卒採用を強化する。

③ 職員の定着化

全国の介護職の離職率は 15.7%との統計が出ているが、当施設の介護職の離職率は、3年度は 4.2%、4年度は 3.9%、5年度は 3.8%（全職種は 2.9%→3.7%→3.7%）と安定している。今後も、研修や福利厚生を充実させ、職員の定着化に努める。

④ 資格取得支援

5年度も多くの職員が資格を取得した。（認知症介護実践リーダー研修 1名、介護福祉士 2名、認知症介護実践研修 2名、実務者研修 3名）6年度も資格取得の支援をし、職員一人一人の成長をサポートする

⑤ ワークライフバランス

5年度に続き 6年度も、介護課の月平均残業時間は 15分と定時退社を実現した。サービス課・看護課はフレックスタイムも多くの職員が活用した。在宅ワークも含め、社会情勢を鑑みながら、職員一人一人の働き方の多様性を受容し、ワークライフバランスを実現する。

⑥ インフォーマルコミュニケーションの促進

5年度は、野球部・フットサル部・ビーチラグビー部・駅伝部が大会に出場。ヨガ部も月 1回活動し、職員同士のコミュニケーションを促進させた。また、年代別の忘年会を開催し、課やフロアを跨いでの職員同士のコミュニケーションをとることができた。6年度も更なる職員同士のより良いコミュニケーションをとるべく環境を作っていく。

⑦ フロア全体での協力体制の強化

ユニット単体では、支援に限界があり、フロア全体で協力体制を取ることで、よりよい個別ケアが実践できる。また課全体、各課との協力体制を強化する。

⑧ ルールの徹底と方向性の統一

施設での決まり事を職員全員が遵守する。また、施設の取組や方向性を理解し、行動を共にするよう、導いていく。（人事考課に反映させる）

⑨ 挨拶の励行

コミュニケーションの基本は、挨拶である。入居者・ご家族だけではなく、職員同士、業者の方にも、自ら元気良く挨拶をする。（人事考課に反映させる）

⑩ 人事考課の見直し

社員に対し、年 2回の面談を含めた人事考課を行い、評価・改善・指導等を行ってきた。6年度は、より効果のある社員の人事考課を実施していく。

3 健全経営の確保 (management satisfaction)

① 1日の平均支援人数 117名

平均支援人数は、4年度は 115.9と落ち込んだが、5年度は 117.3名と目標を達成した。5年度より入居 110名、ショート 10名に変更したため、今後は入居の待機者を増やし、毎月 2～3名の新規入居者をマストとし、6年度も 117名を超える利用者をご支援する。

② 営業利益率 15%以上（横浜市でトップ）を目指す

横浜市の特養では、約 6割の施設が赤字に陥った。（当施設は 14年連続黒字）赤字はイコール 社会資源を有効に活用して頂けていないだけでなく、適切なケアを提供できていない証である。当施設の営業利益率は平成 27年度から毎年度 15%以上で横浜市内のユニット型施設では 1位であったが、4年度 11.3%と 3位と落ち込んだ。5年度は持ち直してはいるが、6年度は 15%以上、1位に返り咲き、適正な収入、支出・収益を上げ、適切なケアが出来る財務体制を維持し続けていく。（横浜市平均 3.05%）

③ 新規加算の取得

加算の取得は、質の高いサービスを提供している証であり、5年度は夜勤配置加算ⅡからⅣに変更（年 310万増）。LIFE 関連で科学的介護推進体制加算を取得（年 55万増）し

た。6年度も必ず新しい加算を取得する。

4 社会・地域貢献 (social satisfaction)

① 地域との連携

菅田の丘小学校の授業の一つとして施設の見学・交流を6回受入れをした。また地域の民生委員の皆様の見学を受入れた。6年度は更に心愛の里のイベント等にも参加して頂けるよう情報発信をし、地域社会の一員としての自覚を持ち、地域における社会福祉活動を支える拠点として、地域住民や関係諸機関との連携を深める。

② 障がい者雇用と特別支援学校卒業生の育成

平成30年度から近隣の特別支援学校の卒業生を介護士として採用し、現在3名が勤務している。6年度も1名採用し、実習受入れも1名予定している。障害者雇用優良企業として、今後も障がいの有無に関係なく、職員全員が楽しく働ける環境を整えていく。

③ 研修生・実習生の受入

5年度は大原医療福祉専門学校の介護実習は無く、教員資格の実習1名のみであった。一方、ユニット推進協の実地リーダー研修には、51名の実習を受入れた。今後も横浜市内のユニットケア推進の基幹施設として、多くの方に心愛の里の個別ケアや取組を伝えていく。

④ アフリカの子供達への給食支援

29年度より、給食1食20円を、アフリカの子供達への給食の支援に参画し、5年度も計7083食(-135)の支援を行った。6年度も引続き実施する。

介護課目標

「個の成長」

①日々、自分に何が足りなくて何が必要なのか考え行動する。

- ・必要と感じたり興味のある研修に自分の意思で参加する。
- ・苦手な物に対しても、重い一歩を踏み出し自らの成長につなげる。

②日々、疑問を持って仕事に励み、考える力を身に付ける。

・与えられた仕事をただするのではなく、なぜこれをやっているのか、どうしたらもっと良いサービスが提供できるかなど疑問を持って考え仕事に励む。

③（固定概念または現状）にとらわれず視野を広げ、柔軟な発想や行動力を身に付ける。

- ・フロアやユニットというものにとらわれず、介護課全体が現場だという意識を持ち行動する事で、他のフロアやユニットにも興味を持ち視野や考え方を広げる。
- ・相手の意見を否定せずに受け入れることで、考え方の幅を広げ、柔軟性を身に付ける。

④楽しい、嬉しい、得意としている部分をより一層成長させ、自信に繋げる。

・自分が苦手な研修、仕事、コミュニケーションなんでもいいので、そこへ足を踏み入れ新しい自分を発見する事で成長につなげる。

「実地研修施設としての役割を果たす。」

- ・ファシリテーターとして役割を果たす
- ・次年度に向けて講師研修参加
- ・施設内研修の充実
- ・外部研修の提示、推奨

・施設の加算要件、人員基準の資格要件に該当する研修や介護現場のリーダー層等を対象と

した研修「求められる介護福祉士像」に定められた項目全てを網羅的に学ぶ。

1A ユニット

- ①職員個々が自分の《強み》と《弱み》を把握し、良い部分を伸ばす研修と底上げを行う
研修に参加し、個とユニット全体の成長を図る。

1B ユニット

- ①ケアプラン理解し、PDCA サイクルを用いたケアを行う
- ②職員の特性を活かした仕事をする

1C ユニット

- ①継続的なケアの見直しと、決まったケアを正確に実施。
 - ・毎ユニット会議での実施状況の確認
 - ・ケアの基本はそれぞれの個性に寄り添う、本人本位であることを確認しながら決める

2A ユニット

- ①初心忘るるべからず
 - ・初心に戻り、社会人として節度ある言葉使い、行動を心がけ、気持ちよく働けるように、お互いを敬う
 - ②笑顔
 - ・入居者様に合わせた様々なレクリエーションを行い、入居者様だけでなく職員も一緒に楽しみ、笑顔あふれるユニット作り
- <切磋琢磨し合える関係>
- コミュニケーションを密にとり、お互いに教え合い注意し合うことで技術、知識を高め合う

2B ユニット

- ① 清潔感のある場の提供と維持
- ② 入居者様と共に楽しめるレクリエーションの充実

2C ユニット

- ①働きやすいユニット作り
 - ・笑顔の絶えないユニットを目指す。その為には、職員出勤時には元気よく挨拶を行う。
 - ・協力ユニット間で、困った時に助け合える関係をこれからも築いていく。その為には、職員間でコミュニケーションを図り、話せる関係をこれからも築いていく。
 - ・関わる全ての人々への気遣い、心遣いを忘れず、相手の立場にたったコミュニケーションを心がける。
- ②職員のスキルアップ
 - ・各自の年間目標に関してユニット会議時、後にリーダーと話し、取り組み状況を確認。目標達成へと繋げる。
 - ・施設内研修等、積極的に参加
 - ・なぜ？ どうして？ 支援内容、ケアを行っているのかを再度確認出来る様、居室担当者がケアプラン作成後、ユニット職員全員で確認し把握する。又、ユニットケアの振り返りとして、自己学習で学び、リーダーが勤務で重なった時に職員に確認行い学びを深める。

2D ユニット

- ① 個別ケアの充実
 - ・知識の習得、実践を毎年目標に掲げ、職員 1 人 1 人が幅広く個別ケアを実践し、日常の業務にしていく。
- ② ユニット支援率 97%以上
 - ・社会貢献より多くの人の支援をする。
 - ・空床に対しての意識、アプローチを行って行く。

③ 職員同士の連携の強化

- ・職員お互いの適材適所を見極め合う。
- ・ユニット所属職員としての自覚を持ち、周りとのコミュニケーションをとり孤立しない環境作り。

2E ユニット

①健全なユニット運営と生活の質の向上を目指す

- ・ユニット職員の得手不得手を理解しお互いに業務を補う視点を持ち日々の業務に努める。
- ・毎月ユニット会議内で問題点の抽出を行いサービスの質や環境の改善を含め目標を設定。振り返りを通じ生活の質の向上に努める。

3B ユニット

- ① 入居者様、ご家族様への責任と節度ある行動を行う。
- ② 入居者様に合わせた余暇時間の充実。
- ③ 気の利く（気づきのある）職員像を目指す。

3C ユニット

① タイムマネジメントの向上

- ・入居者同士のコミュニケーションを増やすための場所、雰囲気作り
- ・業務効率を上げて余暇にかける時間うい増やし、レクや散歩等、入居者様との関わりの時間を作る。

② 衛生管理

- ・ユニットケアを進めるにあたって、トイレのごみはため込まない、テーブルを拭く、食器を濡れたまましまわない
- ・リネン交換の方法等、ユニット内での統一した方法、対策を行う。

3D ユニット

- ①基本に忠実に利用者によりそったケアを行っていく。
- ②報連相を通じてチームワークを深め、利用者一人一人に合わせた支援と清潔な環境を提供する。

3E ユニット

①美味しく・楽しい食事の提供

- ・毎月、ユニットの食費を忘れずに活用し、入居者に食事を楽しんで頂く。
- ・人任せにせず、一人一人の職員が積極的に、小さなことでも良いので食費の使い道を提案していくこと。

②ユニットケアに対する意識の向上

- ・日頃から自身の介助方法に対し、疑問を持つこと。
- ・現在のユニットの状況に対し、思考を停止させず、常に改善していく事を意識し行動する。

看護課 目標

- ①入居者様に寄り添い、入居者様とご家族様との信頼関係を構築し、心地よい生活が送れるよう安心安全な看護を提供する。
- ②入居者様とご家族様のご希望を尊重した最期が送れるよう支援していく。
- ③チームケアの一員として各専門職との連携を図り協働する。
- ④専門職としての誇りと向上心を持ち、自己研鑽に努める。
- ⑤こころとの連携を図り、児童の成長・発達に寄与する。
- ⑥自己管理能力を高めるとともに、施設内での研修・勉強会を開催し職員の教育・啓蒙活動に努める。

⑦看護実践の評価・質の向上を図るために看護記録を充実させる。

サービス課 目標

- ① 施設の窓口として、気持ちの良い挨拶を慣行し、訪れた方へ歓迎の気持ちを伝える。また、入居者様や家族様が気軽に訪れらえる事務所であるよう努める。
- ② 社会福祉従事者の専門職としての自覚と誇りとプロ意識を持ち、常に専門知識と技術の向上に努め、利用者・家族との良い人間関係を築く。
- ③ 近隣地域住民の方、学校関係者の方との交流を深め、地域に根付いた、地域に愛される施設を目指す。
- ④ 担当職務だけでなく、他の職種の応援、協力をし、もし誰かが休んでいても対応できる様にする。
- ⑤ 各課・フロアー・ユニットとの協力体制を強固にし、利用者がよりよい生活を営めるよう支援する。
- ⑥ 多くの方のご利用を勧めるため、更なるサービスの向上に努め、支持獲得に努める。
- ⑦ 仕事の効率化を考え、月の残業時間 10 時間以下を目標とする。
- ⑧ こころ、しんあい、ころねとの連携を図り、入居者の安寧と児童・利用者の成長・発達に寄与する。

【介護支援専門員】

- ① 介護保険法に則った仕事を確実に行う。
 - ・三か月に一度、必ずモニタリングを実施する。
 - ・ケアプランを作成した場合は新たにサービスを開始する月の前月までに家族に説明を行い署名と捺印を頂いておく。
 - ・介護保険更新の手続きと適切な介護度に応じた区分変更手続きを行う。
- ② 入居者主体を達成するために入居者様が選択できる環境作りを行う。
 - ・各関係機関と情報共有を行い課題抽出、課題解決に向けユニット会議へ参加する。
 - ・事故が起きた際には迅速に対応しご家族様へ連絡、報告を行う。
 - ・入居者様と意思疎通を図り、入居者様の自立支援に向けた援助が行えるよう努める。
 - ・入居者様、ご家族様へ寄り添い、思いをくみ取り、安心して頂けるよう丁寧な対応を行う。

【生活相談員】

- ① 入居稼働率 1日 117名以上の支援
- ② 本入居者常時 110名以上の確保
 - ・毎月 3名以上の待機者を確保し、常時 110名以上の本入居者在籍状態を維持することで、稼働率の安定を図る。
 - ・施設主治医と連携し、在宅が困難となった方を積極的に受け入れ、状況に応じてロング利用の案内等、迅速な支援を行う。
 - ・入居待機者が減少している為、ケアマネ様からの紹介や、見学希望があった際に、施設に魅了を感じて頂けるような見学対応を行う。
- ③ 地域交流・地域貢献
 - ・各ケアプラザ・近隣小学校との連携のもと、地域住民の方や、学生さんとの交流を深め、地域との交流を綿密に行う。社会福祉法人として、施設内外問わず、幅広い方々への情報発信・支援を目指す。
- ④ 苦情・クレーム対応
 - ・苦情・クレームを頂いた際は、各部署と連携し、迅速に対応する。また、内容を今後

に生かせる様、対応終了後も事例共有などを通じ、改善に努める。

【管理栄養士】

- ①個々の栄養リスクを把握し、高リスク対象者や状態低下の早期発見、および多職種と連携のもと、対応を行う。
- ②各職種と協働し、個人の嗜好に合わせた食事の提供を行う。
- ③各ユニットと調理員への伝達事項、調整をスムーズに行い、迅速な食事変更対応に努める。
- ④入居者だけでなく職員も満足できるような食事提供を目指す。

【調理員】

- ①各職種との情報を厨房内で共有し、コミュニケーションを密にとりながら作業の効率化を図る。
- ②衛生管理に努め、きれいな盛り付けを心がけ、美味しい食事を提供する。
- ③助け合い、気づかい、思いやりを持ち、いつも笑顔で楽しい職場環境を作る。

【機能訓練指導員】

- ① 入居者様との関りを増やしこまめに身体の状況が観察できる。
- ② 多職種と連携して運動を実施していく。
- ③ レクリエーション（体操、カラオケ等）を継続して実施していく。

【事務員】

- ① 書類の適切な取扱
- ② 整理整頓を行い、効率よく仕事ができるよう環境を整える。
- ③ 経理、請求、給与、その他の業務でのミスを防ぐ。
見直し確認と複数での目で二重チェックを行う。
- ④ 電子化する事により、業務をスムーズに出来るよう環境を整える。
- ⑤ 受付、電話対応では他職種にスピーディーかつスムーズに連携をとり、間違いやお待たせしない様にしていく。
来客者には仕事が忙しい時ほどゆとりをもって、笑顔で対応する。
- ⑥ 職員のための健康管理を推進する

【清掃員】

- ① 入居者・ご家族・職員等、施設内にいる全ての方が、気持ちよく過ごして頂けるよう施設の環境美化に努める。

【運転手】

- ① 交通マナーを守り、利用される方が安心して乗車できる運転を心がける。
- ② 心のこもった挨拶を心掛け、利用者様・ご家族様双方が気持ち良く利用して頂ける様努める。
- ③ 車内外を清潔に保ち、快適に乗車して頂ける環境整備を行う。